



題字 井口 文章  
再刊 第380号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2022

一面：第57回卒業式が挙行されました！  
57回生 ご卒業おめでとうございます！  
二面：3学期に行われた講演会取材しました  
北大路翼さんの講演会が開催

# 拍手の雨に未来へ

## 第57回卒業式挙行

3月18日(土)に、新型コロナウイルス感染症対策のもと、第57回卒業証書授与式が行われた。保護者や3年間お世話になった先生方に見送られながら、卒業生478人は錦城を旅立った。  
(3年生共同取材)



先生に温かく見送られて  
第1体育館を後にする卒業生

57回生最後の式典  
入学式と同じく雨が降る。短縮などの新型コロナウイルス対策を講じながら、第1体育館にて実施。また、保護者は各家庭1名まで参加可能だった。



副担任へ  
感謝の色紙と花束を渡す

## 卒業生へ 在校生が教室を装飾

3月15日(火)に昨年度と同様、在校生が卒業生の教室で黒板アートなどを制作した。作品では桜や鳥、星をモチーフにしたものが多く見られ、中には竜をモチーフにしたユニークなものも見られた。制作過程の中では笑顔や、卒業生との思い出話が開き、和気あいあいとした雰囲気制作された。  
(桂)



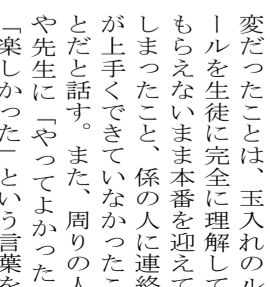
協力して黒板に絵を描いていく

## 高校生活最後の思い出を

3月15日(火)に初開催された「3年生の卒業を祝う」は、1位がH組、2位がG組、3位がA組となった。例年は三送会として行われていたが、コロナ禍で数年ビンゴ企画は、感染対策の連続中止となり、三送会を知らずとも各教室をZoomで繋いでいる生徒が誰もいない状態で実施された。先生クイズ、態になつてしまった。そこで、思い出クイズ、なんでもクイズ3年生の有志で構成された実生の3つを行った後、その正行委員会が結成。「Google」誤と運動会の成績に応じて「Classroom」を活用するなど工夫を開けられる。優勝クラスとして、3年生自身の手で1のH組には景品としてジュニア月末から準備が進められてきた。今回は、その様子を紹介する。

様々な企画を実施  
最初に行われた企画は運動会。グラウンドで大縄跳びと玉入れの2種目を行った。大縄跳びでは、クラスごとに2分間8の字飛びをし、その合計回数を競う。玉入れは、1策として教室での実施。C組クラスで100個の玉を分けとD組によるダンス映像と、新しい先生が背負うか、映画研究部が制作した先生出しの動画が放映された。漫才とエールを送った。(燕・鴻)

クラスで跳ぶ最後の2分間



3年間を通して...  
校長の松林博之先生は最初、57回生の入学式で、錦城で身につけるものとして「自立」「学力」「人間関係」の3

動しており、兼部も可能だという。部員が各々パソコンで制作したクイズをプロジェクトターでスクリーンに映し出し、クイズを出し合っている。様々なジャンルのクイズを制作しているの好きなジャンルのクイズを扱うことができると、実際に大浦さんが制作したというクイズは、様々な色や構成で作られており、解くだけではなく視覚的な面からも楽しめるものになっていた。錦城生に向けて「クイズをやりたい人や少しでも興味のある人はコンピュータ一室に来てください」と呼びかけた。(鳥・歩)

木戸大翔さん(3C)は、学生代表として壇上に上がった元生徒会長の中村心咲さん(3C)は、昨年の卒業式では先輩方の卒業を祝うことができなかったが、今年3年間を振り返る。「純粋に楽しかったこととありますが『でも』と思ってしまうのが正直なところ」と中村さん。しかし、その上で最後に「57回生はよく戦った、努力を続け今日まで懸命にがんばったことを『残念』の一言で片付けられないほしい」と呼びかけ、答辞を述べた。



インタビューに応じてくれた4人でピース

あなたに尊敬する歴史上の人物はいるだろうか。私たちが尊敬しているのは坂本龍馬だ。日本でも屈指の知名度を誇る人物であるが、昔前に流れた「坂本龍馬が教科書から消える」というニュースには衝撃を受けた。このニュースが巷を駆け巡ったのは「暗記中心」となっている歴史の授業及び入試の在り方が議論されてきた2017年末。実際に、1987年と2017年の2つの日本史の教科書における歴史用語の数を比べてみると、30年間で4300語も増えているという。(歴史研究家多摩大学客員教授 河合教氏による)この「暗記中心」の動きを問題視した「高大連携歴史教育研究会(高校と大学の歴史教員によって構成されている研究機関)が、用語の精選案を発表した。当時進んでいた大学入試改革における、暗記よりも「思考力、判断力、表現力」を求めているという風潮も大きく影響したようだ。特に歴史などでは暗記は避けて通れないため、頭を抱える錦城生も多いのではないかと、その中で、歴史を大きく動かしている人物の名前として、坂本龍馬や吉田松陰など、お馴染みの名前が挙がっており、それらを暗記する必要が無いと判断されたという。確かに坂本龍馬は、多くの歴史小説でヒーローとして描かれたため、派手な印象が先行立っ。しかし、日本初の株式会社である亀山社中の創設、薩長同盟の仲介など多くの功績を残し、先進的で柔軟な発想は明治維新の原動力になった。坂本龍馬を教科書から消すことは、日本の発展の立役者の存在を歴史の表舞台から消すことにならないだろうか。▼「歴史に龍馬は不要である」ということを理由に用語精選の動きに賛同する人がいるという。しかし、国や人のために粉砕身を現存の日本を作り上げた人物がいること自体に我々は龍馬を感じ、学ぶのではないかと。削除の対象にならなければならない人物の功績にもう一度注目し、それに対する人々の認識をより近づける必要があると感じる。(香)

生徒会動静  
3. 15~3. 23  
生徒会随時活動中

## 錦城のクラブ活動に新たな風

百人一首同好会・有志クイズ研究会 始動  
念願の同好会へ  
百人一首同好会が設立されたことを受けて、メンバーの高島倫香さん(2C)と遠藤瑞希さん(2J)に話を聞いた。百人一首同好会は毎週火、金、土曜日に2年生2人、1年生5人で活動している。現在所属しているのは全員初心者で、兼部も可能だそうだ。折だ。同好会の雰囲気について高島さんは「学年を越えて



一瞬一音が勝負を決める

話すことも多く、仲が良く「思います」と話す。また、遠藤さんは「百人一首を学ぶのは強みだと思えます」と同好会の魅力を語る。最後に遠藤さんは「同好会として活動できるように頑張りたい」と、高島さんは「もともと人が集まってほしいと思います」と錦城生へ呼びかけた。



クイズを作成し、部員相互で解き合っている

有志団体としてクイズ研究会が活動を始めた。代表の大浦優太さん(1C)は「錦城で活動できる第一歩となったため、嬉しいです」と話す。クイズ研究会は毎週火・木・金曜日にコンピュータ一室で制作したというクイズは、様々な色や構成で作られており、解くだけではなく視覚的な面からも楽しめるものになっていた。錦城生に向けて「クイズをやりたい人や少しでも興味のある人はコンピュータ一室に来てください」と呼びかけた。(鳥・歩)

木村征太郎さん(3H)は「入学式がこの間のことのように感じるほど楽しんだ高校生活でした。特に部活に全力を注ぎ、3年間1つのことに熱心ななりました」と話す。後悔しないような人生を歩むことを念頭に過ごしてい

や失われた友達との交流などの『残念』な部分にも目を向けていて、深く共感しました」と話す川千智さん(3H)。川さんと同じく生物部に所属する松山奈津希さん(3A)は「部活で静岡の須崎海岸に文化祭展示用の熱帯魚を採集したのがとても楽しかったです」と語る。「みんながいてくれたから楽しい学校生活を送ることができました」と友

あなたの部活を宣伝してみませんか？  
**部活動勧誘広告募集集中！**  
4月以降に発行される錦城高校新聞に部活動の勧誘広告を掲載する予定です。掲載を希望する部活動は、お近くの編集委員または、新校舎7階の生徒会室までお願いします。  
新聞委員会編集部



# 先輩の経験を自身に活かす

## 進学懇談会 開催

3月15日(火)に、大学に合格した3年生から1、2年生へ向けて進学懇談会が行われた。今号では、3年生の講演の様子をお届けする。

### 志望校は見通しをもって

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科に合格した松下由依さん(3J)が受験を意識し始めたのは3年生になる前の春休み。しかし、3年生の6月まで吹奏楽部の活動があったため、本格的に受験勉強を始めたのは夏休み前だそう。1、2年生の頃は、部活があり勉強時間を多くとることができ

### 生活リズムを大切に

電気通信大学情報学部数理工学科などに合格した大澤隆雅さん(3I)は受験の心構えについて「受験はメンタルが大切だと思います」と話す。また、夜更かしなどの生活リズムを妨げるようなことはほし

### 細部まで手を抜かず

早稲田大学文化構想学部・社会科学部などに合格した水谷多実子さん(3H)は、特に力を入れた方がよい教科を英語だと語る。3年間かけて、英語の定期テスト対策として音読を行い、速読の力をつけた

### 東日本大震災を学ぶ

はじめに、公益社団法人3.11みらいサポーターの藤間千尋さんによる東日本大震災学習が行われた。藤間さんは東

### 松島の名所を知る

次に、修学旅行で乗船予定だった観光クルーズの丸文松島汽船の矢部善之さんに松島についての話を聞いた。話の中で「家族や友達、恋人とい



実際に使用していた参考書やノートを紹介

勉強方法は「問題集は自分に合うものを探して、それを完璧にするのが良い」と思っています。過去問を解くときは、まず1年分解いてみて、戦略を立てることが大切だ

して、映画研究部の部長だった齋藤さんは、勉強と部活の両立はできると話す。「気持ちや気合いに加えて時間が無い中でどう隙間時間を使うかが大切

3月12日(土)と15日(火)に2年生を対象に大学説明会が行われた。文系は大学グループ別に3つ、理系は学部別に3つに分かれて行われた。

3月12日(土)、医学部の受験説明が行われた。甘来康寛先生がプロジェクトを使って入試形態や国立大学と私立大学の違い、奨学金を含め

た学費の説明をした後、阿部一郎先生が医学部を目指す際の心構えを語る。甘来先生は「受験において、受け入れるべきことは出てくると思うので、器を大きくすることを心がけてほしい」と話す

折念公園内にある保育園の遺構やみやぎ東日本大震災津波

伝承館など震災の影響で非可住エリアとなった地域の様子も紹介。最後に質疑応答が行われ、終了となった。

## 俳句で学ぶ世の中の見方

### 北大路翼さん講演会開催

2月26日(土)に多目的ホールにて、俳人の北大路翼さんの講演会が行われた。北大

路さんは小学3年生で俳句に出会い、近年は「アウトロー俳句」でメディアでも注目を集める俳人だ。講演会のタイトルは「世の中の見方を変える」

「若いうちに味わってほしい自由を伝えたい」という思いから講演会を引き受けたという北大路さんが講演会を通して伝えたかったことは「世の中を疑うことの大切さ」だ

講演会後、北大路さんに取り返る。俳句を作るときは世の中の物を自分の感覚に落とし込みながら作っているとい

う北大路さん、「俳句は身の回りの物を表すものなので難しい事はありません」と話す。最後に「全てのものに對して色々な角度から見てくださ

今回紹介するのは、チンチラ(ネズミの一種)のテト(メス)とトトロ(オス)。2匹の名前は、それぞれジブリ作品『風の谷のナウシカ』とな

人物の名前が由来だそう。2匹は今年度の6月に来たばかりで、部内でも高い人気を集める。かわいいルックスや、

出でてきてくれないときもあり「生物部の部屋は目立たない場所にあるので、部室の場所を知らない方も多いと思いま

すが、個性豊かな生物部の部員やかわいい生き物がたくさんいるのでぜひ気軽に来てくださ

機に生物部に足を運んでみてはどうだろうか。



参加者が考えた俳句を先生が書き出す

路さん「春うらら(設置先生) そうだ。「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「固定観念にとらわれない」ことの重要さを知るといっ

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

「型にはまった見方や、自分にとつての『正しい』。また俳句は雅な短歌とはい

## 生物部のアイドルって?

今回紹介するのは、チンチラ(ネズミの一種)のテト(メス)とトトロ(オス)。2匹の名前は、それぞれジブリ作品『風の谷のナウシカ』とな

人物の名前が由来だそう。2匹は今年度の6月に来たばかりで、部内でも高い人気を集める。かわいいルックスや、

出でてきてくれないときもあり「生物部の部屋は目立たない場所にあるので、部室の場所を知らない方も多いと思いま

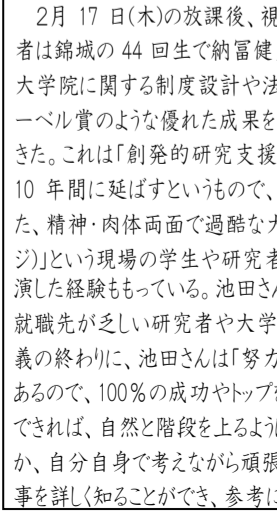
すが、個性豊かな生物部の部員やかわいい生き物がたくさんいるのでぜひ気軽に来てくださ

機に生物部に足を運んでみてはどうだろうか。

機に生物部に足を運んでみてはどうだろうか。

## 国家公務員の仕事を学ぶ

2月17日(木)の放課後、視聴覚室Aにて国家公務員の進路講演会が行われた。講演者は錦城の44回生で納富健児先生が初担任だったという池田宗太郎さん。文部科学省で大学院に関する制度設計や法令の管理を行っているほか、前の部署では、日本が今後ノーベル賞のような優れた成果を出し続けることができるように、研究者を支援する制度を作ってきた。これは「創発的研究支援事業」と呼ばれ、研究費の支援期間をこれまでに類を見ない10年間に延ばすというもので、ノーベル化学賞受賞者の吉野彰さんにも評価されている。また、精神・肉体両面で過酷な大学院の「ブラック研究室」を無くすため、「Air-Bridge(エアブリッジ)」という現場の学生や研究者と繋がるプログラムを展開しており、NHKの『ニュース7』にも出演した経験も持っている。池田さんはもとより、阿部一郎先生の影響を受けて生物の教師を目指していたが、能力が高いのに就職先が乏しい研究者や大学院生を上手に活かせる社会を創りたいという思いから、国家公務員になることを決めたそう。講義の終わりに、池田さんは「努力は目標に向かって自分の足場を高くするためのものです。ただし、そこからのジャンプは運要素もあるので、100%の成功やトップを常に狙う必要はありません。しかし、努力によって常に自分の立ち位置を“中の上”に置くことができれば、自然と階段を上るように、長い目で見れば最後は高い到達点へ導いてくれるはず。残された高校生活をどうしたいか、自分自身で考えながら頑張ってください」とエールを送ってくれた。講演を聞いた皆川大和さん(2M)は、「国家公務員という仕事を詳しく知ることができ、参考になりました」と話した。



社会に尽くす喜びを語る